

月刊

2014

7
月号

みんぱく

特集

沖縄の くし



本土の沖縄展示 安里進

泡盛と古酒文化 萩尾俊章

「うろこ取り」について 大湾ゆかり

神女の衣装 小禄裕子

石垣島のソーロン(盆) 大瀨憲二

戦後沖縄と英語学校 呉屋淳子

沖縄スポーツのゆいまるる精神 仲本兼進

沖縄の音色

「沖縄は飛行機を降りたら、すぐに三線の音色が聞こえてくる」。そう話されたのは、地唄・生田流箏曲の家元であり、人間国宝の二代目富山清琴先生だ。今から一年半ほど前の琉球舞踊家・佐藤太圭子「師籍五〇周年記念第二五回佐藤太圭子の会」公演の打ち上げでの出来事であった。さらに先生は「三線の音色が身近に聞こえるのは、あなた方は気付かないかもしれないが、すごいことだ。本土で、沖縄のように身近に三味線の音色が聞こえてくるというのは、なかなかない」と続けた。

確かにそうだ。沖縄では観光地をはじめ、スーパーや近所を散歩している時にでも三線の音色が聞こえてくる。また、テレビやラジオのローカル番組やCMでも三線の音色は頻りに流れる。民謡酒場も多くあり、毎晩のようにライブが行われている。その他にも結婚式や新築祝い、運動会、エイサー、十五夜などなど。思い出してみると、至る所で三線の音色が聞こえ、生活に大きく密着していることが分かる。

一四世紀末ごろに中国から琉球へ伝来したとされる三線。琉球王国時代は宮廷音楽、士族の教養として発展し、廃藩置県後は民間へと普及していく。沖縄戦では沖縄全土が焦土と化したのが、捕虜収容所では空き缶とパラシュートの糸を弦に

新垣 俊道

プロフィール
1979年沖縄県生まれ。琉球古典音楽演奏家。沖縄県立芸術大学非常勤講師。国立劇場おきなわ第1期短期研修生。国立劇場開場45周年記念「おきなわ芸術の今、そしてこれから」IV、国立劇場おきなわ開場10周年記念「組曲 大川敵討」などに出演。主な作品は「琉球舞踊曲集 野村流」(国際貿易)、「沖縄の伝統芸能 組踊 執心鐘入」(日本ウエストミンスター)など。

して、カンカラー(空き缶)三線をつくり演奏し始めた。それが、大いに人々を慰め癒した。戦後は三線人口が増え、近年では様々なジャンルに三線が取り入れられ、オキナワンポップスと呼ばれる新しい音楽も誕生している。その一方で、「三線弾ちやー(三線を弾く人は遊び人)」と蔑まされてきた時代もある。

しかし、何故だろうか。いくら蔑まされても、今日まで多くの人々によつて三線が弾き続けられているのは。背景には、その長い歴史があると考えられる。これまで激動の時代を乗り越えてきた三線の間、大きな喜びもあれば、深い悲しみもある。その時代に生きた人々の喜怒哀楽が「チムグクル(肝心)」として三線に、そして音色や音楽に魂として宿り、それが沖縄人のDNAの中に深く残されていると信じている。三線を習い始めてから二三年。それを考えたとき、一年半前の富山先生のお言葉は衝撃的であり、今でも鮮明に思い出される。

私は琉球古典音楽の演奏家。演奏技術はもちろんのこと、先人達と繋がり「チムグクル」を共有することが真の演奏家ではないだろうか。たかが三線、されど三線。「チムグクル」探しの旅は、これからも続く。

- 14 文化遺産ももてうら
文化遺産は誰のもの?—越境する人形劇ワヤン
吉田 ゆか子
- 16 多文化をあきなう
大学生とフェアトレード
大野 敦
- 18 味の根っこ
フォイトーン
宇都宮 由佳
- 20 人間学のキーワード
ビッグデータ
丸川 雄三
- 21 異聞逸聞
困ったときにはゴッドファーザー
関 雄二
- 22 制服の世界、世界の制服
人民服
—20世紀中葉に中国で隆盛した制服系ファッション
横山 廣子
- 24 次号予告・編集後記

- 1 エッセイ 千字文
沖縄の音色
新垣 俊道
- 2 特集
沖縄のくらし
- 2 本土の沖縄展示
—民博と海外移住資料館を見て 安里 進
- 4 泡盛と古酒文化 萩尾 俊章
- 5 「うろこ取り」について 大湾 ゆかり
- 6 神女の衣装 小禄 裕子
- 7 石垣島のソーロン(盆)
—四力字を中心に 大演 憲二
- 8 戦後沖縄と英語学校 呉屋 淳子
- 9 沖縄スポーツのゆいまーる精神 仲本 兼直
- 10 集めてみました世界の〇〇
帽子編
丸川 雄三
- 12 みんぱく Information

月刊
みんぱく
7月号目次



特集

沖縄のくらし

「日本の文化」展示のなかに、あらたに設けられた「沖縄のくらし」セクション。琉球王国の時代や、第二次世界大戦後のアメリカによる統治、そして一九七二年の日本への復帰という、歴史的な転換期を乗り越えて育んできた、沖縄の独特で多様な文化を紹介する。



本土の沖縄展示 ——民博と海外移住資料館を見て

安里進 あさとすすむ
沖縄県立博物館・美術館長

多角的な「沖縄のくらし」

「戦後のくらし」展示がとても新鮮だった。とくに照屋林助の「ワタブーショウ」のポスターが印象に残っている。三〇年ぶりの本館東アジア展示リニューアルにあわせた「沖縄のくらし」展示のオープニングセレモニーに招かれたときの感想だ。

民博の沖縄展示は、これまで、日本展示のなかでの部分的な紹介だったという。これが今回は、日本文化展示のなかに一角を設けて「沖縄のくらし」を紹介する充実ぶりだ。島々の多様性という視点のもとに、人びとのくらしをモノや映像で紹介している。そして、最後に「戦後のくらし」の展示がある。

ジュークボックス、冒頭に紹介した「ワタブーショウ」のポスター、エイサー衣装、かりゆしウェア、高校野球で全国制覇を果たした沖縄尚学や興南高校のユニホームなどが賑やかにレイアウトされている。「戦後のくらし」展示を担当した沖縄出身の呉屋淳子機関研究員は日本復帰後世代だが、琉球政府時代の雰囲気もじつによくつかんでいる。

ところで、今回の展示リニューアルは、米軍基地や歴史教科書をめぐる沖縄と本土の溝が深まるなかで進められてきた。民博のみなさんが沖縄の現状を受けとめ、民博ならではの方法で沖縄を紹介し理解を深めることに尽力していることが伝わっ



「沖縄のくらし」内、「戦後のくらし」展示



てくる。

しかし、沖縄の歴史を研究してきた者からみれば、今回の展示にもまだ違和感はある。五〇〇年におよぶ独立国家の歴史と独自の言語・文化をもち、自らを琉球人と自覚してきた人たちの伝統文化が、日本文化のなかで扱われることへの違和感だ。これは沖縄側にも原因がある。本土と沖縄双方の研究者が議論し克服すべき課題だと思う。

世界のウチナンチュ移民

民博見学の後、JICA横浜の海外移住資料館で「雄飛——沖縄移民の歴史と世界のウチナンチュ」展を見る機会があった。民博では、「多みんぞくニホン」展示で、日本にくらす大勢の外国人との融和を打ち出しているが、海外移住資料館は「われら新世界に参画す」という大テーマを掲げて、移住先の国で新しい文明づくりに参加する日本人の姿を紹介している。このふたつの展示施設は、移住し交流するという人類の普遍的な営みのなかで日本人や日本社会をとらえようとしている。外国人へのヘイトスピーチや領土問題で排外的な空気が広がりがつつあるこの国で、ふたつの展示館が果たす役割はとても大きいと感じた。民博と海外移住資料館の沖縄展示は、こうした広い視野の展示のなかで紹介されている。その意味で、沖縄の博物館や資料館ではなかなか学ぶことができないものがある。海外移住資料館の展示には、民博の先生方も関わっている。沖縄に住むわたしたちとは異なる視点と視野から、沖縄を客観化してわかりやすい展示で紹介する努力が本土側でおこなわれていることの意義は大きいと思う。



JICA横浜の海外移住資料館で開催された「雄飛——沖縄移民の歴史と世界のウチナンチュ」展

泡盛と古酒文化

萩尾 俊章

沖縄県教育庁文化財課副参事兼班長

口嘯み酒から蒸留酒へ

沖縄の泡盛は今ではよく知られた代表的な蒸留酒である。泡盛が普及する以前の伝統的な酒は何かというと、「口嘯み酒」であった。年中行事の主要な祭りに際しては、米を用いた口嘯み酒が盛んに作られ供されていた。この伝統は歴史的な記録からは一五世紀から確認でき、一部の地域では戦後まで存続していた。

泡盛の源流となる蒸留酒が琉球王国に伝来したのは、一五世紀後半と推定されている。近世において、王府は首里三箇の酒屋において泡盛製造を統制



呉須差抱瓶
制作者：小橋川源慶
地域：沖縄県 那覇市
沖縄県立博物館・美術館蔵
みんぱくの「沖縄のくらし」で展示中

多彩な古酒づくり

さて、泡盛の大きな特徴は、長くねかせ、熟成させることで酒質が向上するところにある。つまり、より味わい深い、おいしい酒になるのである。現在、泡盛は製造してから三年以上ねかせたものをクース（古酒）とよんでいる。

かつて首里城には「康熙年間」の古酒があったと伝えられる。康熙とは中国の年号で、西暦の一六六一〜一七二二年にあたる。ということは、二〇〇年以上経たぬ古酒が育まれていたことになる。一七世紀後半の時代は儉約政策が進められたことにより、酒を貯蔵する



各種の泡盛や酒器、古酒を収集した酒倉（沖縄県うるま市 宮里米徳氏宅）

風が始まったとも推察されている。これは王宮の特別な事象と思われるかもしれないが、そうでもなかった。昭和初期に沖縄を訪れ「泡盛醸造視察記」を著した大崎正雄は、「泡盛酒の最も古きものは二百年、百五十年は希にあらざ」と記しており、首里の旧家でも長期保存の古酒が秘蔵され、「古酒文化」が息づいていたのである。

現代の泡盛は個性化の時代を迎えている。さまざまな趣向や技術を生かした銘柄の泡盛が市販されるとともに、泡盛の多彩な古酒づくりがグループや個人でも展開されている。

「うろこ取り」について

うろこを「ごし」し

魚のうろこを取る道具のことを、沖縄では「イーキトウイムヌ」とか「イリチウクサー」というようだ。一、二センチメートル厚の木の板に二寸釘を二五〜二〇本ほど打ちつけた簡単な道具で、釘の先端の尖った部分を魚の背に当ててうろこを削ぎ落とすものである。

大湾 ゆかり

沖縄県立博物館・美術館主任学芸員

かつては魚の行商をする女性たちが、たらいに魚と一緒にまな板、包丁、天秤、うろこ取り等を入れて市場へ行き、その場で魚の量り売りをしていた。道端でたらいを降ろし、まな板に乗せた魚のうろこを「ごし」扱く姿は、どこ

の市場でもみられた光景であった。そのうろこ取りだが、現在では市販のものが出回り、木製のものあまり見かけない。だから今春、八重山の黒島で実際に手製のうろこ取りを使っている場面に遭遇したときにはじつに興奮した。たまたま今回の展示で沖縄県立博物館・美術館が所蔵する二点のうろこ取りのうち一点を貸し出すことになったので、余計に希少性を感じていたときであった。

手製の威力

うろこ取りにもいろいろな形があるが、黒島のうろこ取りはまだまだ新しく、頭部が大きく持ち手が細い。釘も一寸釘ではなく「十」ネジが使われている。



手製のうろこ取り
沖縄県立博物館・美術館蔵
みんぱくの「沖縄のくらし」で展示中

これを作ったお爺さんが「ンズ（魚の意）」と言ひ、釣ってきたばかりの魚を庭先でさばっていた。お爺さんは手製のうろこ取りと市販のものを両方使っていたが、手製のうろこ取りの威力は抜群で、硬いうろこもあつという間にはじき飛ばされていく。見ていてまさに万能な道具だと感心した。

今回、国立民族学博物館の「沖縄のくらし」の展示に際し、沖縄県立博物館・美術館が貸し出した三三三の資料には、嘉瓶や抱瓶とよばれる酒瓶や碗などの陶器類、張り子の玩具等の工芸品が含まれる。また、銚や網、鋏、円箕などの大型の漁具や農具が数々ある。そのなかにあつてこの素朴なうろこ取りという道具は、漁師の暮らしや魚市場でうろこを掻く勇ましい場面を想起させる貴重な資料になることであろう。



黒島のうろこ取り

神女の衣装

小緑裕子

元宮古島市総合博物館学芸員

集落への降臨

宮古の各集落にみる神女の衣装は、藍色を基調にした絳模様の着物が一般的で、正装として木綿布で仕立てた白の神衣装を羽織る。今回、みんばくの「沖繩のくらし」セクションで展示されている衣装は、宮古島の北端に位置する狩俣のウヤガンといわれる祭祀で着用された衣装を参考に仕立てたものである。

宮古で一般にアークといわれる歌謡のなかのタービ、フサ、ピヤシ、ニリーという長編の神歌は年間祭祀の場で数多く歌われていた。その中心となるのが神女である。冬季におこなう一連の祭祀は別名ウヤガン（親神）と総称され、旧暦九月から二月に



みんばくの「沖繩のくらし」で展示されている神女衣装の複製
H0275666、H0275667

かけて五回実施される。毎回、祖先神ウヤガンに扮した神女たちが、狩俣集落の西側（民間方位。実際は北側）に位置する聖林イヌヤマ（西の山）のなかに入り、そこで数日間籠もって所定の儀礼を務めた後、集落へ降臨する。この降臨は数度にわたる場合もある。神女たちは集落へ降臨する際、その時間帯に合わせて苧麻衣や芭蕉衣の神衣装を身につけると、草冠を被り、腰にはつる草を帯として巻き、手に杖か、テイヤグの草を持つ。狩俣では、ウヤガンの生まれる根家の家柄に嫁いだ女性は、神衣装（祖神衣）として黒色衣、苧麻衣や芭蕉衣、木綿白衣、五色布などを受け継ぐが、儀礼によって選任された場合には個人で詠えなければならぬという。本来、祖神衣は他者が触れるものではなく、継承者がいなければ、退任儀礼で役を解かれた神女とともに棺に納められる。

再現の工夫

今回、参考にした神衣装は、苧麻衣、木綿無地の黒神衣、七本（五本）一組の五色



狩俣のウヤガン（輪舞）

参考にされた衣装。宮古島市総合博物館蔵



石垣島のソーロン（盆）

四カ字を中心に

大演憲二

石垣市立八重山博物館館長補佐

祖霊をなぐさめる

ソーロンガナシヌウシユマイダー ショッコシラリナオツターネー ショッコシイ オイサーバ トウーサンナーサンカリイ ヒョーリッ これは、盆でおこなわれる新川地区のアンガマ道行の節で、祖霊がおいでになったので焼香してあげましょうという内容である。

盆の三日間、石垣島四カ字を中心にアンガマがおこなわれる。アンガマは、ウシユマイ（翁）とンミー（媪）が、ファーマー（子）

（孫）を連れてグシヨ（後生）から訪れ、地域を練り歩き、招かれた家々の祖霊を慰めるものである。ウシユマイやンミーの裏声での機



アンガマは、盆の三日間、招かれた家々の祖霊を慰める。招かれた家で、後ろに控えるファーマー（子）（孫）の歌・三線でウシユマイ（翁）とンミー（媪）が舞っているところ

知に富んだ問答が特徴的で、ファーマーが演じる踊りも芸能の島と称されるにふさわしく多彩である。

市場はソーロン景気

沖繩の盆は、七月一三〜一五日の三日間おこなわれ、石垣島では、ンカイピン、ツカシピン（迎日）、ナカヌピン、チュウニチ（中日）、ウクリピン（送日）などによぶ。

盆が近づくと、市場は今も昔も「ソーロン景気」のごとく活気をみせ、女性たちは盆飾りや供物用の材料を準備し、男性たちは墓掃除をおこなう。このころから独特な空気が漂いはじめられる。

迎日の夕方、墓へ出かけ祖霊を案内して来る。家の門前に束ねた稲わらの先を焼いて祖霊を迎え仏壇に招き入れる。早速、朝昼夕食や茶菓子などで送日までの三日間供応する。よって、女性たちは台所から離れられず多忙を極める。一方、男性たちは盆の三日間で親類縁者宅へ祖霊への焼香に出

掛け、これまた大忙しである。

盆の三日間、仏壇は提灯や回り灯籠、山海物などで飾りつけられる。八重山蔵元の絵師が描いた仏壇の盆飾りに比べれば、近年の生活改善運動によってかなり質素になったものの、依然華やかな飾りつけである。送日の夜は、家族そろって焼香し銭型を打ったウツンガミ（打紙）を焼き、午前〇時近くに門前で祖霊をお送りする。

親しみと怖れ

石垣島では、年に二度、祖霊とともに食事を取りながら時を過ごす。一月の十六日祭と七月の盆で、十六日祭には墓前に出向き、盆は家に招き入れる。いずれも祖霊との近さ、親しみの深さからくるもので、それが祖先崇拜の強さを感じさせる所以かもしれない。冒頭に紹介したアンガマでもいわば異界から訪れた存在にも関わらず、怖れることなくむしろ親しみを込めて接していることもその表れである。

反面、七月はソーロン月ともいい、祝い事を避けることや七月以外で歌うことを忌み嫌う古謡があるなど、やはり現世と後生を隔て、霊に対する畏怖の念は抱いている。

送日の翌日は、各地域で獅子祭りイタシキバラの行事がおこなわれ、獅子を舞わせて邪気や悪霊を追い払う。漂っていた独特な空気が消え、日々の生活に移っていく。



新川字会の獅子祀りは、他の地域とは異なり、送日の昼、新築の家でおこなわれることが多い。字会役員や地域の古老などが集まって、地域の邪気払いと字民の健康を願う

戦後沖縄と英語学校

呉屋淳子 民博 機関研究員

米軍統治下の英語教育

戦後沖縄では、米軍統治という事情もあり英語教育を重視する風潮があった。戦後沖縄で展開した英語教育には、大別してふたつの目的があった。ひとつは、学校で英語教育をおこなうことができる教員の養成、もうひとつは、米軍基地内で「軍作業」に携わる人びとの実用英語の習得である。軍作業とは、米軍雇用労働のことをいい、事務をはじめ港湾・運送・道路・住宅の建設といった職種があった。当時の沖縄では、軍の物資を輸送するトラックの運転手は「花形職種」とよばれ、人気のある職種だった。教員養成のための英語教育は、一九四六年に米軍政府によって設立された沖縄文教学校でおこなわれた。その後、米軍政府はより高度な英語教育をおこなうため、公立の外国語学校を設立した。これを皮切りに、一九五〇年四月までの約四年間で英語教師の他、翻訳・通訳官の育成をおこない、約七〇〇人余りの卒業生を輩出した。一九五一年、琉球政府立琉球大学が開学すると、英語教師の養成はすべて高等教育機関に移管された。



英語を学ぶ学生とその講師。名護英語学校にて(提供・名護市教育委員会)



私立の英語学校。1963年ごろの名護英語学校(提供・名護市教育委員会)

時代だった」と語った。とはいえ、私立の英語学校に通うためには、当然まとまったお金が必要だった。学費や下宿代を工面するために、親戚からお金を借りる者や畑を売ったりする家も少なくなかった。 「戦後のくらし」では、戦後沖縄の様子を辿る資料として沖縄出身の講師によって設立された私立の英語学校、名護英語学校の写真パネルを展示した。戦後沖縄でもっとも重視された英語教育の変遷から、戦後をたくましく生きようとした人びとの息づかいを感じて欲しい。

沖縄スポーツのゆいまーる精神

仲本兼進 スポーツライター・ラジオディレクター

誇りであり、魂である 「高校野球が始まると沖縄の経済はストツブする」。それは決して大袈裟でもなく、郷土愛が織り成す一般的な事象である。大柄な男性がオフィスの片隅で携帯のワンセグ片手にソワソワすれば、県民の台所である市場の至るところで太鼓や指笛が鳴り響く。渋滞が当たり前の主要道路も閑散。その光景は県外の人から見れば異様なものかもしれないが、作業を止めてまで応援すると

いう行為は県民としての誇りであり魂なのだ。そしてその応援は、チームに対してというよりもむしろ、沖縄県人だから応援するということの意味合いが強い。たとえ対戦相手でも沖縄出身選手がいればその選手に拍手を送る。頑張っている姿を見ることが県民の心を強くさせているのだ。

沖縄の象徴としてのスポーツ

戦後、沖縄は日本から切り離された経験をもつ。本土が主権を回復し経済状況も上向きになるなか、生活や産業活動の基礎となるインフラ整備もままならず交易も限られていた。本土復帰後も離島県だからそのハンディキャップやネガティブな意識は当然存在する。そのため自立心は非常に強い。失われた時間を取り戻すため本土との差を埋めるべく懸命に努力を重ねた。その行為の結果が目に見えてあらわれるものひとつが野球だったのだ。甲子園で躍動する選手の姿を見て県民が一体となり、明日への活力に繋げる。今日の応援スタイルは、ともに助け合い自分を捨てて人に情けをか



目的意識をもって日々の練習に励む沖縄尚学の選手

けるという「ゆいまーる精神」なのだ。その精神は今なお根強く、沖縄スポーツの発展に重要なポイントとなっている。

二〇〇四年夏から二〇一四年春までの一年間で三度、全国制覇を果たした高校野球(〇八年春・沖縄尚学、一〇年春夏・興南)。プロバスケットボール「bjリーグ」の琉球ゴールデンキングスが三度の日本一。そしてサッカーのFC琉球は念願のJリーグ入りを果たした。選手、監督、そして一から基礎を作りあげ尽力した方々の熱意があったからこそ今日の結果へと繋がっているのだ。

県民は歴史的、地理的な苦難を結集することで乗り越えてきた自負がある。だからこそ沖縄を応援するのだ。その思いが続く限り沖縄のスポーツ界は更に発展していくことだろう。



団結心の象徴となっているバスケットボールチームの試合会場は、常に熱気を帯びている(提供・琉球ゴールデンキングス)

イギリス

1979年にパーミンガムにて収集された麦わら帽子。1918年製の古いもので、黒い幅広のリボンと花飾りがついている。
H 9.0 x W 30 x D 31
H0067439



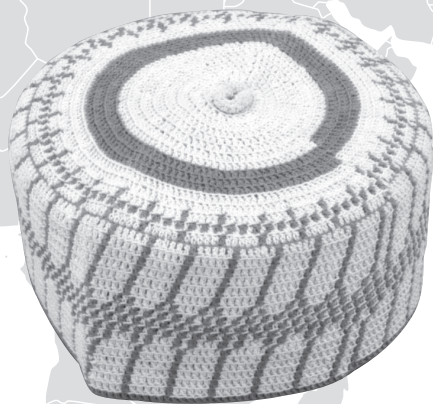
ハンガリー

1930年ごろに使われていた帽子。ハンガリー語でカラブとよばれる。祭日には帯に色つきのリボンをつける。本資料にも、花模様の刺繍がほどこされたリボンがつく。
H 13 x W 28 x D 32
H0161518



セネガル

セネガルの人びとが使う帽子で、民族衣装を着るときにかぶるもの。ウォロフ語でンバハネとよばれる。
H 9.5 x W 18 x D 20
H0222256



ボツワナ

ヘレロの人びとの民族衣装のひとつ。女性がかぶる帽子で、角のような突起のあるのが特徴である。
H 23 x W 47 x D 17
H0204856



チベット

チベット教ゲル派の僧侶が使用していた儀礼用の帽子(ドルー)。宗義の論争のときに会場内でかぶる。1913～1916年にかけて、青木文教氏が収集した資料のひとつ。
H 62 x W 39 x D 27
H0064763



日本(三重県)

夏にかぶる麦わら帽子(カンカン帽)。つばと天井部が平らで硬いのが特徴で、おもに和装での外出時に着用した。資料はおそらく1950年代に使われていたもの。
H 9.9 x W 28 x D 31
H0035963



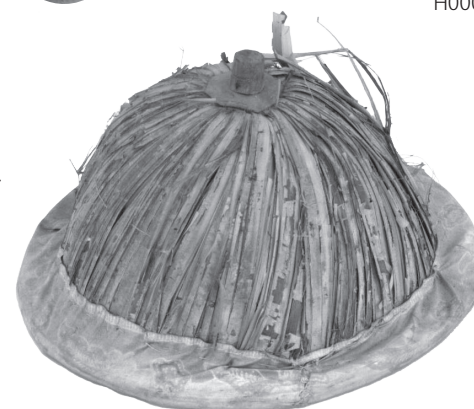
日本(鹿児島県 奄美大島)

麦わらでつくられた帽子(ムンギャラボウ)。夏にかぶるもので、非常に軽くて涼しい。1977年に奄美大島で収集されたもの。
H 15 x W 43 x D 43
H0008071



マレーシア

バジャウの漁師が使う笠。ニツパヤシの葉でできている。
H 19 x W 30 x D 33
H0198312



ジャマイカ

キングストンで収集された毛糸の帽子(ラスタファリアン・ハット)。下から赤、黄色、緑の順に配色されている。
W 31
H0153741

ボリビア

縁のない毛編みの帽子。男性のみが使用するもので、リュチュ(アイマラ語)、チュクまたはチュユ(ケチュア語)などの現地語でよばれる。
H 36 x W 27
H0004536



集めてみました世界の



みんなが所蔵している世界の帽子を集めてみました。

日差しをさえぎるための麦わら帽子や寒さをふせぐ毛の帽子、儀礼や民族衣装にあわせて着用する帽子など、その目的や形もさまざまです。

※寸法の単位はセンチメートルです。

メキシコ

1987年にテキスキアバンで収集された帽子。スペイン語でソンプレロ・ガナデーロとよばれる。本資料には平織りのスカーフが付属している。
H 19 x W 35 x D 40
H0156446



本シリーズ4月号～7月号の企画編集は、丸川雄三(民博 先端人類科学研究部)が担当しました。

みんなくフォーラム2014

東アジア展示があたりしくなりました!! 朝鮮半島の文化・中国地域の文化・日本の文化「沖縄のくらし」「多民族くらし」の展示が新しくなってオープンしました!

◆関連イベント

◆展示場クイズ「みんなはO」 朝鮮半島の文化編 7月15日(火)まで 日本の文化「沖縄のくらし」「多民族くらし」編 7月24日(木)～8月26日(火)

企画展

「みんなくおもちゃ博覧会」大阪府指定有形民俗文化財「時代玩具コレクション」

国内有数の玩具コレクションの中から4つのテーマに沿って展示します。日本の玩具史の概要を知ることができ、体験コーナーには、すぐ遊べ、おはじき、ぬり絵、メンコなど楽しい遊び道具がいっぱいあります。

研究公演

「アリラン峠を越えていく」 在日コリアン音楽の今」

在日コリアンが奏でる音楽には、マイノリティとしての体験や歴史の記憶が投影されています。朝鮮半島の伝統音楽をベースにした「音楽の今」をお楽しみください。

本館を活用した国際理解教育の実践事例の紹介やワークショップを通して、国際理解教育における博学連携の意義や可能性について考えます。

◆参加無料(要事前申込、当日参加可) 申し込み・お問い合わせ先 情報企画課 FAX 06・6878・8242

みんなくワールドシネマ

アメリカでの数年間の出稼き労働から故郷へ帰った父親が、家族と再会し新たに生活を築き上げていく模様を通して、異文化に働きに出る人びと、その人を送り出し故郷で待つ家族の心情と現況を見つめていきます。

夏休み子どもワークショップ 「貝からわかる世界の暮らし」 みんなくで貝を探してみよう!

自由研究応援。みんなくに展示されている貝製品から、世界しゅうの暮らしを考えて、報告書にまとめよう。

MMP10周年記念ワークショップ

◆手づくり楽器を作ってみよう! 日時 7月27日(日) 11時、13時、14時、15時 (各回30分)

◆やってみよう! わくわく体験inみんなく/夏休みスペシャル

日時 8月3日(日) 10時30分～16時20分 (随時受付) 会場 本館エントランスホール・セミナー室

時間 11時～13時30分 会場 あべのハルカス近鉄本館「スペース9」

◆番外編 企画展「みんなくおもちゃ博覧会」見学ツアー 日時 7月24日(木) 11時～13時30分

◆研究公演、映画会等参加方法変更のお知らせ 4月から、研究公演、みんなく映画会、みんなくワールドシネマにご参加いただく際、当館の展示観覧券のご提示をお願いすることにいたしました。

なお、みんなくフリーパス、国立民族学博物館友の会会員証、キャンパスメンバーズの学生証等をお持ちの方は、ご提示いただくと、観覧券は不要です。

◆各イベントについてくわしくはホームページをご覧ください。 ※電話でのお問い合わせの受付時間は、9時～17時(土日祝を除く)です。

みんなくセミナー

時間 13時30分～15時(13時開場) 会場 本館講堂 定員 450名(当日先着順) 参加費 無料(展示をご覧になる方は観覧料が必要です)

第434回 7月19日(土)

泡盛今昔物語

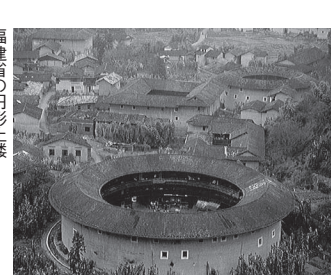
講師 日高真吾(本館准教授) 萩尾俊章(沖縄県教育庁文化財課副参事兼班長)



泡盛は琉球王府の管理の下、首里の指定酒屋で生産されていた蒸留酒。かつて首里城には数百年もの古酒が伝わり、外交や接待の際に振る舞われました。18世紀前半には一般にも広まりをみせ、今も人気を博しています。

第435回 8月16日(土)

世界遺産に住む——客家の伝統家屋



客家の人びとは巨大な集合住宅に住んでいることで知られています。なかでもドーナン型の円形土楼と馬蹄型の圓龍屋(いりゅうおく)は珍しいため、文化遺産保護の対象にもなっています。本セミナーでは、円形土楼と圓龍屋をめぐる最新の情報を紹介します。

みんなくウィークエンド・サロン

研究者と話そう 会場 本館ナビひろば 時間 14時30分～15時30分 ※申込不要、参加無料(要展示観覧券)

7月6日(日)

話者 菅瀬晶子(本館助教)

話題 多みんぞくの街・新宿新大久保物語 —生まれ育った者の視点から

7月13日(日)

話者 三島禎子(本館准教授)

話題 アフリカの布から見る世界の経済

7月27日(日)

話者 朝倉敏夫(本館教授)

話題 うどん・オムライス・味の素 —朝鮮半島における「食」の近代化

本館の研究者が来館された皆様の前に登場します。「研究について」「調査している地域(国)の最新情報」「展示資料について」など、話題や内容は実に多彩。どなたも質問をお寄せください。展示場でお待ちしております。

現代世界に生きる人々は、何に共通性を求めて、どのようなつながりに社会を見込んでいるのか。いま、あらためて社会的なるものとは何か、ヨーロッパのフィールドワークから問い直す、本館共同研究の成果。

岸上伸啓 著 『クジラとともに生きる—アラスカ先住民の現在』

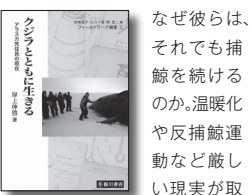
なぜ彼らは、それでも捕鯨を続けるのか。温暖化や反捕鯨運動など厳しい現実が取り巻く極北の村で、捕鯨民の文化と社会の実態に迫る。

森明子 編著 『ヨーロッパ人類学の視座—ソーシャルなるものを問い直す』

世界思想社 3,800円(税別)

刊行物紹介

岸上伸啓 著 『クジラとともに生きる—アラスカ先住民の現在』



臨川書店 2,000円(税別)

友の会

国立民族学博物館友の会 電話 06-6877-8893 (9時～17時、土日祝を除く) FAX 06-6878-3716 http://www.senri-f.or.jp/ e-mail minpakutomo@senri-f.or.jp

友の会講演会(大阪)

会場 本館第5セミナー室 定員 96名(当日先着順、会員証提示)

第434回 8月2日(土) 14時～16時

「新展示関連」

植民地期に海を渡った日本の食

韓国には、私たちにとてもなじみのある名前の食べ物が多くあります。オデン、サシミ、うどん、トンカツ、オムライス。これらはすべて、植民地期に日本から朝鮮半島に渡りました。現在、これらの食べ物は、韓国でどのように変化しているのでしょうか。

第435回 9月6日(土) 14時～15時

「企画展「未知なる大地」—グリーンランドの自然と文化」関連

極北の孤島グリーンランドにおける気候変動と文化の変遷

北アメリカ大陸の北東沖に世界最大の島グリーンランドがあります。現在はアイスランドが住んでいます。人類がそこに進出したのは今から四五〇〇年ほど前のことでした。同島は、一年をとおして厚い氷河が大部分を覆う水の島です。ところが一〇世紀末に入植したバイキングは、「緑の大地」とよんでいました。水の島がなぜ「緑の大地」なのかという疑問にもつき、グリーンランドにおける文化の盛衰や交替を、気候変動との関係から紹介いたします。

※国立民族学博物館ミュージアム・ショップの記事は、表紙うらに移りました。

文化遺産は誰のもの？

越境する人形劇ワヤン

よしだ 吉田 ゆか子 民博 機関研究員



無形の文化遺産は、有形の遺産と異なり、過去のかたちを厳密に再現するのは不可能だ。このため柔軟に継承され、ときにグローバルな時代性も反映する。

日本の寺でのある上演

二〇一四年四月のある日、わたしは名古屋市内のある寺で、日が暮れるのを待っていた。境



ジャワ影絵 (左) とバリ影絵 (右) の共演

内には二枚のスクリーンが張られていた。これから、インドネシアの無形文化遺産としてユネスコに登録されているワヤン・クリットが上演されるのだ。水牛の皮から作られ、繊細な透かし彫りがほどこされた人形が、炎に照らされてスクリーン上にゆらめく影をつくる。ダラン(人形師)は一人で数十体の人形をあやつり、声色を変えながらそれぞれの役を演じ、歴史や神話を中心とした物語を語る。ダランの後ろにいる伴奏の楽隊は、即興混じりの人形の演技に

合わせ、臨機応変に演奏を編み出してゆく。観客は、スクリーンの前に座って人形の影を鑑賞したり、スクリーン裏にまわり、彩色された人形の表情、ダランの人形さばきや、演奏者たちの撥(はた)さばきを楽しんだりもする。

「インドネシアの」無形文化遺産？

ところでワヤン・クリットはインドネシアの無形文化遺産であると述べたが、わたしが観た「焰翔(ほろと)ぶ饗宴(きやうえん)」は、それに含まれるのだろうか？ 上演を堪能(たんのう)した観客にとっては、これはまったく野暮な問いなのだが、

答えるのはなかなか厄介だ。この日ジャワのダランとそのアシスタント以外の出演者は日本人であった。日本語も豊富にもり込まれたため、日本語に通じていないインドネシア人ならば、上演は理解不能でさえあっただろう。また、上演には、いわゆる「伝統的」とは言いがたい側面があった。例えば、ジャワとバリでは夜通しの上演が一般的であり、観客はうたた寝したり、外の屋台で小腹を満たしたりしながら観る。それに対し「焰翔(ほろと)ぶ饗宴(きやうえん)」は、二時間の短縮版であり、観客は熱心にその一部始終を鑑賞した。このように、あ

観客はそれぞれの人形や影絵師の技法、伴奏音楽の響きの違いを味わった。

無形文化遺産の厄介さと面白さ

有形の世界遺産とは異なり、無形文化遺産の場合、人や情報や物の移動によって空間を超えてゆく可能性がある。これが無形文化遺産の厄介かつ面白い点である。そのため国土の範囲と文化遺産の伝承の範囲が一致しないことも多々ある。例えば、ワヤンも含め、インドネシアの無形文化遺産には、隣国マレーシアでも見られるものが複数ある。ちなみに、いくつかの国がユネスコに文化遺産を共同で登録する制度もあるのだが、遺産保護方針の違いや、政治上の理由から共同登録に至らないこともある。

しかし、この上演は、インドネシアのそれぞれの地で育まれた土着の要素を明確に意識し、その魅力を表現するものでもあった。ジャワとバリという異なるスタイルの影絵の共演で、

またグローバル化により、国境を越えて芸を習得する人びとも増えた。芸能はあらたな土地

で、その土地の文化や環境とかわり、変化する。グローバル化は、無形文化遺産の脅威として語られることが多いが、日本でワヤンが花開いたように、あらたな表現の可能性をもたらすもする。「焰翔(ほろと)ぶ饗宴(きやうえん)」は、ジャワやバリの上演形式をかなり踏襲していたが、日本で上演されるワヤンには、より現代的な創作を志向するものもある。例えば、アメリカの影絵演出家を迎えて、日本人の影絵上演集団「ウロツテノヤチバヤガンス」がアイヌの音楽家たちと共同で創作する「アイヌ影絵プロジェクト」

がある。バリの影絵や音楽の要素を部分的に受け継ぎながらも、非常にオリジナルでユニークな表現を追求している。無形文化遺産の制度は、コミュニティ内での世代を超えた伝承を重視しており、日本におけるワヤンのような展開はほぼ視野外にある。しかし「〇〇国の文化遺産」という枠からはみ出してしまふ、越境(こえり)しままな土地で楽しめるワヤンの姿には、むしろ大らかで豊かな「人類の」遺産としての魅力がうかがえるのである。



バリの芸術祭ポスター。ワヤンはバリ文化の象徴でもある

取材協力
Hana ★ Joss、コンチョ・コンチョ、
サンディア・ムルティ、梅田英春

フェアトレードは手軽で身近な国際貢献として、授業やサークルなど、大学においてさまざまな活動に利用されている。そこには、どのような課題があるのだろうか。

学生が興味をもつ理由

生産者や労働者に正当な労働の対価を支払うことと、そのしくみづくりを商いの目的としているフェアトレードは、イギリス・スイスを中心とした欧米諸国で消費が拡大し、日本や韓国などアジア諸国があらたな消費地として成長している。

一般的に、フェアトレードの消費者は三〇代の学歴が高い女性が多い、という傾向が全世界的にあらわれている。大学生の場合は男女に大きな差はなく、フェアトレードに興味のある学生は多い。筆者は前任校の神戸国際大学経済学部で開発経済学の授業を四年間おこなった。学期末に一番興味をもったトピックを尋ねると、半分以上の学生がフェアトレードと答えている。学生がフェアトレードに興味をもつ理由は、身近な消費活動であること、手軽な国際貢献であることなどである。こうした学生の関心を背景に、高校や大学でフェアトレードが教育に生かされる例は多い。学生の変化が保護者の社会意識の変化を促すことは、筆者のこれまでの

一方、積極的にフェアトレード活動に取り組む学生もいる。大学のフェアトレードサークルやFTSN（フェアトレード・スチューデント・ネットワーク）のメンバーとして、あるいは地域のフェアトレード団体やタウン運動に参加することで、フェアトレードにかかわることができる。

多くの学生活動は、大学生協と連携した学内での普及活動のみならず、街チョコ活動（商店街などでオリジナルなフェアトレード・チョコレート企画販売すること）など学外でも活発な活動をおこなっている。こうした活動への参加は、学生に対して社会との接点という貴重な経験を与え、体験学習の一種として機能している。さまざまな意味をもつフェアトレードとのかかわりを通して、学生自身がフェアという概念を見つめなおす多くの機会を得ている。

また、学生を受け入れるフェアトレード団体や地域社会も、こうした学生の参加や取組の多くを、活動拡大の機会として好意的に受け入れ、共同で活動をおこなうことが多い。一方で、フェアトレードをおこなう企業やNGO側が学生を安価あるいは無償の労働力として考え、ある種の「やりがい搾取」が発生しているケースも多くはないが存在する。その原因は、フェアトレード団体と学生のあいだにある労働の質とやりがいの相互認識のギャップにある。

学生の使命はどんなに

このようにフェアトレードにかかわる学生の活動が活発であるのに対して、学問としてのフェア

経験から確認することができ、フェアトレード教育は、持続可能な商いの形態を社会全体として考えるひとつの契機になっている。

やりがいを求めて

学生のフェアトレード認知度は近年上昇している。筆者が立命館大学経済学部の新入生にアンケートを取ったところ、九〇パーセントの学生が大学一年生四月の段階でフェアトレードを認知していた。これは、教科書への記載がなされ、二年連続でセンター試験の問題あるいは問題文としてフェアトレードが登場していることが理由としてあげられる。一方で、フェアトレード商品を購入したことがある大学生は多くない。購買することができない理由としては、身近で商品が見つけにくいこと、コーヒー・紅茶・バナナ・チョコレートといった嗜好品を学生は積極的に消費しないこと、があげられる。購買した経験がある学生も、その金額や回数は多くなかった。

レードは低調である。学生が自主的におこなう活動の多くはイベントに留ま^{とど}っており、学問との接点は弱い。これは、他の途上国にかかわる学生の活動の多くに共通する問題だが、自らの活動の社会的インパクトが冷静に検討されているわけではない。学生の多くに、自主的な活動を学問的レベルに引き上げる必要があるという発想が弱い。

筆者の大学でも、フェアトレードをテーマとする卒業論文が毎年数本は書かれているが、その質は学内で高く評価されているとは限らない。これは、フェアトレード研究自体に十分な蓄積がなく、学生が参照できる文献が少ないことや、フェアトレード団体のキャパシティの問題から、学生に活動の場を提供できても、研究の素材を提供できないことに起因する。フェアトレード団体側が、学生の社会的使命である学業の修得へどのような貢献ができるかわからないことも大きな課題である。

イギリスをはじめとする欧米諸国では、フェアトレードタウンの派生形としてフェアトレード大学の認証が進んでいる。これらは、大学におけるフェアトレードの普及・調達の拡大を担っており、アメリカやオーストラリアではフェアトレード教育の普及を目指している。それぞれに課題は大きく、諸外国の制度をそのまま移植することはできないが、大学における学問としてのフェアトレードを考え直すひとつのきっかけになる制度であろう。

このように、大学生とフェアトレードの関係にはいくつもの課題があるが、学生の社会的な関心を育てるフェアトレードは、教育関係者にとって大きな希望のひとつである。



学外のバザーにてフェアトレード商品を販売



FTSNの会議のようす



フェアトレードネットワーク名古屋の会合にて学生の報告



オープンキャンパスにて学内の食堂でフェアトレードコーヒーを配布中

タイの卵菓子

フォイトーン

宇都宮 由佳 青山学院女子短期大学 准教授



フォイトーン。市場やスーパーに卸されていく

タンブン——寄進される菓子

菓子工房の朝は早い。約束した時間は午前
三時だ。静寂に包まれている工房に明かりが
ともる。托鉢に回る僧侶へ寄進したタンブンをす
る、つまり徳を積むためである(写真1)。タイ
は、仏教徒が九割を超える。上座部仏教の僧侶
は、大乘仏教とは異なり自ら調理せず、信者か
らの寄進を受け、午前中のみ食事を摂ることが
できる。農村部では、手作りの料理や飯が寄進
されるが、都市部では市場で買ったものを用い
られることが多い。そのなかに、ひととき目立つ
黄金色に輝く伝統菓子がある。「フォイトーン」
だ。「フォイ」は細い、「トーン」は金色を意味し、
卵黄を使ったタイを代表する菓子である。

フォイトーン作り

菓子工房と居住スペースは隣接しており、ラ
ンニング姿のクンポー(お父さん、六三歳)と
息子さん(三四歳)が顔を出す。ワイ(タイ式
の挨拶)を交わした後、菓子づくりの見学が静
かに始まった。鶏卵より少し大きめなアヒルの
卵が次々と割られ、卵黄と卵白にわけられる(写
真2)。最後の一個だけ全卵が卵黄のボールに
入れられる。これを木綿のさらしで二回丁寧に
こしていくときれいなオレンジ色の卵黄液が出
来上がる。水が入った鍋に大量の砂糖が加えら
れ、ガスコンロに火が入る。白く濁った砂糖液
は、徐々に透明感を増し、沸騰直前で火を弱め
る。円錐形で先端が切られたステンレス製の用

フォイトーン歴史

フォイトーンは、一五世紀の大航海時代にポ
ルトガルからアジア諸国へ伝わった菓子である。
ポルトガルでは、フィオス・デ・オヴォス(卵の糸)
とよばれ、菓子のトッピングや飾りに用いられ
ることも多く、量り売りもされている。現在、
タイ、日本、インド(ゴア)で伝承されている。
タイへは、アユタヤ時代のターイサ王
(二七〇八一七三二)に仕えた敬虔なキリス

やかになり、ねっとりしている。黙って詰める
作業を手伝うわたしに「日本にもって帰って売
るかい?」と息子さんが笑う。朝日が差し込ん
でくるころクンポーが椅子を玄関の外に出した。
すると朝焼けの向こうから僧侶がこちらへゆっ
くり静かに向かってくるのが見える。わたしは、
急いで裸足になってクンポーと一緒に金色に輝く
出来たてのフォイトーンを寄進し、お経を拝聴
した。手間暇かけて作った菓子でタンブンをす
る。これまでにない充足感と安寧に満たされた。

ト教徒マリー・ギマルドによって伝えられた。
宮廷の菓子部門「ターオトーンキープマー(上
位三番目の職位)」の称号まで得た彼女の祖父
は平戸出身の日本人で、一五九二年に、豊臣



写真2 卵黄と卵白にわけ



写真3 沸騰した砂糖液に卵黄液を落とす



写真4 砂糖液からフォイトーンを引き上げる

材料で花の形をした「トーンイップ」、滴型の「ト
ンヨー」などがある。
日本でも「玉子素麺」「鶏卵素麺」が、一六
世紀の『南蛮料理書』や『料理物語』(一六四三)
に記載されている。鶏卵素麺を製造販売する博
多松屋菓子舗は一六七三年創業、黒田藩の御用
菓子となり、茶の席、贈答品などに用いられ、
現在まで息づいている。米が主体の食文化の両
国にとって、「卵」が主体の菓子は、当時衝撃
的なものであったであろう。

心の安寧——タンブんと菓子

空が白み始めたころ菓子工房では、フォイトー
ンの他、モーケーン(ポルトガル由来菓子、ココ
ナッツミルクの入ったタイの焼きプリン)の出来
上がった香りいっぱいになる。少し冷めたフォ
イトーンは砂糖でコーティングされ、さらに艶



写真1 チェンマイ市内の托鉢風景

フォイトーン作り方(約30人分、1人当たり約30g)

- | | |
|-----------------------------|---|
| アヒル卵黄 30個 | <ol style="list-style-type: none"> 卵黄に濃厚卵白(卵黄の周囲にある、粘性の高い卵白)を加え、2回裏ごす。 クッキングシートを円錐状にして先端を0.5cm切る。 鍋に砂糖液を作り沸騰させる。 砂糖液を弱火にし、②に①を入れ卵黄液を糸状に円を描くように砂糖液に落としていく(調理中、砂糖液の濃度が高くなるので水を加えて調節する)。 箸でザルにあげ、出来上がり。 |
| 濃厚卵白 大きじ1と2/3 | |
| 水 1.2ℓ | |
| 砂糖 1.2kg | |
| (鶏卵の卵黄 15個、全卵 1/2個も可能。約8人分) | |

買い物をするときに現金と一緒にカードを出す。店員はカードを手際よく機械に通し、おつりやレシートとともに買い物客に返却する。カードには買い物額に応じた点数（ポイント）が記録され、次回以降の買い物に充てられる。コンビニエンスストアなど、今ではさまざまな種類の店舗で見られるありふれた光景である。

購入金額に応じて、プレゼントに交換可能なシールなどを渡す還元サービスは、ずっと以前から存在した。冒頭の光景も、レジの進化によって紙のシールがカードに置き換わっただけだと見ることもできる。しかしカードとシールの違いはそれだけではない。

通常、カードには買い物客の氏名や生年月日などが登録されている。店舗の経営者は、購入された商品と、購入者の年齢や性別といったプロフィールとを細かく対応付けできる。あるいはその時間の気温や天気といった他の数字や記録とを結び付けることもできる。これは従来の方式では得られなかったあらたな「情報資源」であり、その活用により、商品の仕入れ数や店舗への配列方法、新商品の開発などに役立てられるのである。

このような情報資源が一定の分量を越えると、「ビッグデータ」とよばれるようになる。総務省が公開している情報通信白書（平成二四年度版）によると、ビッグデータとは、多量で多種類のリアルタイムデータ（即時性の高いデータ）で

ビッグデータ Big Data

まるかわ ゆうぞう
丸川 雄三 民博 先端人類科学研究部

未来を予測する

人間学の キーワード

あり、そのデータを活用することで、利用者の要望に即したサービスの提供や、業務の効率化が期待できるものとされている。また、ビッグデータの具体的な事例としては、小売店の販売予測、自動車の走行データを収集・分析することによる交通渋滞予測、病院では新生児の体温や心拍数などのセンサーデータを用いた赤ちゃんの容態の予測などが挙げられている。

コンピュータ技術の進展により、わたしたちはビッグデータを用いて未来を予測できるようになりつつある。いずれ天気予報のように、明日の体調や通勤・通学経路の危険度などが予報値として手元に届くようになるかもしれない。

だがビッグデータに予測できる未来は、今のところごく近い範囲に限られている。例えば今から来年の流行語を予測することは難しいだろう。データによる予測は、すでにきざしが見えているいわば連続的なものを対象にせざるを得ないからである。一方で、未来を形作る人間の活動には、これまでつながりのなかったものを結びつけるといった不連続なイノベーションが大きな役割を果たしている。

博物館や美術館といったミュージアムに來ると、人類のイノベーションがどのようなものであるか（あったか）を知ることができるといえる。ビッグデータによる近未来の予測に目が向き始めた今、より先の未来を見通すためにも、ミュージアムの役割もまた大きくなるものと予想されるのである。

困ったときにはゴッドファザー

関 雄二 民博 研究戦略センター

カトリック教徒の多いラテン・アメリカでは、子どもが誕生すると、親は友人に子どもものの代父、すなわちゴッドファザーを依頼する。親に万が一のことがあれば、子どもの面倒をみるのはゴッドファザーなので、責任は重い。昨年、わたしはこれがある場で務めた。

わたしが発掘しているパコパンバ遺跡は、南米ペルー北高地の海拔二五〇〇メートルの山中にある巨大な神殿である。遺跡の麓には、戸数五〇〇ほどの村があり、そこで家を借りながら調査をしている。

ミスコンへの支援

昨年九月、卒業を控えた中学生の女子二人が、学校のミスコンに出場する候補者のゴッドファザーになってくれとわたしに頼んできた。こんなゴッドファザーもあるのかなと思いつつも気軽に引き受けた。

イベント当日、飾りたてられた中学校の会場と司会のマイクを握る先生の姿を見て驚いた。これは完全な公式行事だ。音楽とともに、各学年から選抜された候補者がドレス姿で登場し、壇上で演説をする。その後、ゴッドファザーと腕を組み、見物客であふれかえった講堂を一周し、お金を集



観衆はお気に入りの候補者の募金箱にお金を入れる

める。一周ごとに、校長と審査員が募金額を計算し、発表する。これを三回繰り返し、合計額が一番多い候補者がミスマッチというしくみだ。合計額の半分は、卒業学級の修学旅行に充てられ、残りの半分は勝利者の学級のものと

なる。つまり卒業学級が勝てば、全額を卒業旅行に使える。

金があるの言う

単純ななかにも駆け引きがあった。二周目までは小銭ばかりだったのに、三周目に入ると、一発逆転をねらって候補者の家族や同級生、それに何よりゴッドファザーが札束を募金箱に入れたのである。賭け事を学校ですることになり気分が乗らなかつたわたしも、卒業旅行がかかっている懇願する学生の視線に負けて協力することにした。結果は僅差で卒業学級の勝利。後日、インカ帝国の都クスコマでの卒業旅行をしたという。

こうしたゴッドファザーというパトロンへの依存は、村の生活のさまざまな場面で見られる。主体性や自主性に立つ遺跡の活用事業を計画しているわたしには、将来大きな壁となるかもしれない。



毛沢東に背広とネクタイ着用のイメージはない。色もデザインもちよつと地味な、立て襟の上着を着ているイメージではないだろうか。あの種の服装はどこに起源があり、どんなふうに関民に普及したのだろう。

人民服——二〇世紀中葉に中国で隆盛した制服系ファッション

横山 廣子 民博 民族社会研究部

人民が主人公の国で

八三年の秋、初めて北京に到着したわたしは、乾燥した空気とともに、報道映像で知ってはいたものの、人びとが似通った色や形の服装をしている独特の生活空間に身を置くことになった。中国は八〇年代初めから改革開放路線に転じていたが、日々の暮らしの随所で文化大革命の余韻や社会主義を強く感じる出来事に遭遇した。当時、一般の人びとが着用していたのはいわゆる「人民服」である。わたしより先に北京に来ていた日本人の研究者二人に初めて会ったとき、揃って人民服を着ていたのが印象的であった。

人民服は、中国語で「人民装」という。今の中国では、ほとんど耳にしない。広義にはレーニン服、中山服、狭義の人民服などの総称で、外形的には「制服系ファッション」ということができる。一九四九年の中華人民共和国建国後、それ以前と区別するため、「人民」が主人公の国家で生まれたものには人民元、人民公社など「人民」が冠せられた。

洋服屋に仕立てさせ、自ら着用した。孫文が日本で見た学生服や軍服の形が参考にされたという。

中華民国時代、中山服は公務員の制服に採用されたが、一般への普及は限定的であった。当時、男性の礼服といえば、中国伝統の「長袍」とよばれる長衣がもっとも多かった。他方、軍服としては、中山服を土台とするものが国民党系と共産党系の双方で採用された。但し一九二九年に制定された共産党系の紅軍の軍装には、中央に赤い星がついた八枚の帽子が組み合わされた。それは後に「解放帽」とよばれ、中国人民解放軍を象徴する装いのひとつとなった。

文化大革命の到来でピークに

共産党政権の樹立で、中山服に転機が訪れる。毛沢東、周恩来ら政治指導者は天安門上に登場するとき、また外国の要人を迎えるとき、常に中山服を着用した。色はグレー、黒、紺などで、上質の毛織物生地が用

東洋的風格のある近代的礼服から

中山服と狭義の人民服の違いは布地や仕立ての質だけで、形は同じである。上質のものを中山服、大衆的なものを人民服とよぶ。形を重視する立場では両者を同義とすることもある。それは立折襟で、前身頃にボタンをかける蓋付き貼りポケットが左右対称に四つあり、前中央のボタンは五つ、左右それぞれの袖口にボタンが三つ付いている。



北京でお目にかかった三氏、左より中生勝美氏、趙光明先生、飯倉照平先生が着用するのは人民服（北京、1983年11月）

この形の服は一九二〇年代初め孫文によって考案され、孫文の号の「中山」をとって「中山服」とよばれた。西歐文明が流入した当時、孫文は、背広ではなく、東洋的風格のある、近代中国人にふさわしい礼服を求めていられた。もつとも典型的な「中山服」である。同じ形だが、労働者にふさわしく質素に作られた「人民服」が、大衆へと広がっていった。同時に、建国から一〇年弱の中ソの蜜月時代には、レーニンに由来する「レーニン服」が、革命的な女性の服装として流行した。中山服と同様の立折襟だが、丈が長く、腰で布ベルトを締め、ボタンがダブルになっている。

制服系ファッションの隆盛は、文化大革命の到来でピークに達する。この時期を特徴づけるのは軍服である。一九六六年八月に紅衛兵と天安門広場で初めて面会した毛沢東は、中山服ではなく、草色の軍服に「解放帽」を着用した。

以後、紅衛兵も軍服を着るようになったという。実際のところ、本物の軍服は限られており、それに憧れる人びとのために類似品が多数作られた。制服系ファッションとしての「人民服」が、圧倒的な勢いでそれ以外を押し退けていった。草色の「軍服」が筆頭の地位を占め、さらに青、灰、黒の三色の「人民服」が社会を埋め尽くしたのである。



男性二人が着用するのは人民服、中央のわたしが着用するのは広義の制服系ファッション（昆明、1984年3月）



中山服を着て記念写真を撮った雲南民族学院の楊先生（昆明、1980年代はじめ）



軍服を着用した毛沢東のポスター。「無産階級文化大革命全面勝利万岁」と書かれている（1966年）標本番号 H0254360



撮影当時、麗江の50歳代以下のナシ族女性は、伝統的頭飾りではなく、「解放帽」タイプの帽子を被っていたが、現在では少なくなった（雲南省麗江、1984年4月）

編集後記

東京の国立新美術館で開かれていた「イメージの力——国立民族学博物館コレクションにさぐる」展が先日閉幕した。2月から6月までのあいだに6万人を超す入場者があったらしい。展示会場で販売されていた図録、みんぱくの展示ガイド、『月刊みんぱく』の関連バックナンバーの売り上げも好調であった。実行委員の一人として展示や編集に関わってきた者としては、つくったものを多くの人が見てくださるのは、やはり嬉しい。

東京でのお役目を果たした所蔵品は無事みんぱくに里帰りしてきた。2000平米の真っ白なアート空間で3カ月間すまし込んでいたモノたちは、9月11日に当館での特別展として開幕するまで、ちょっと一休みである。しかし展示準備の方はまた忙しくなってきた。ポスターデザインを新調し、特別展示館に合わせてレイアウト図面を引きなおす。イベントの企画も着々と進んでいる。小誌9月号の関連特集の原稿も、今まさに編集途中である。

新美術館とはまったく違う空間で、同じコレクションがどう見えるか、をうご期待。

(山中由里子)

みんぱくをもっと楽しみたい 人のために——会員制度のご案内

国立民族学博物館友の会

本館展示の無料入館や特別展示の観覧料割引にくわえ、『月刊みんぱく』や会員機関誌『季刊民族学』などの定期刊行物や、毎月の友の会講演会、セミナーなどを通して多様な文化の情報を提供しています。

みんぱくフリーパス

1年間、本館展示へ何度でも無料で入館いただけます(特別展示は観覧料割引)。他にも、みんぱくを楽しむための特典がいっぱいあります。

国立民族学博物館キャンパスメンバーズ

みんぱくと大学等教育機関との連携を図り、文化人類学、民族学にふれる学びの場を提供することを目的とした会員制度です。

詳細については、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
(電話06-6877-8893 / 平日9:00～17:00)

●表紙：喰籠(じきろう) 沈金牡丹唐草 標本番号 H0275295 地域：沖縄県那覇市

次号の予告

特集

多みんぞくニホン

※みんぱくウィークエンド・サロンの情報は、13ページに移りました。

月刊みんぱく 2014年7月号

第38巻第7号通巻第442号 2014年7月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話 06-6876-2151

発行人 池谷和信
編集委員 山中由里子(編集長) 櫻永真佐夫 河合洋尚
庄司博史 菅瀬晶子 丹羽典生 丸川雄三
編集アドバイザー 山内直樹
デザイン 宮谷一 長岡綾子
制作・協力 一般財団法人千里文化財団
印刷 能登印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。
*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅から近鉄バスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分。
- 乗用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

みんぱくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

みんぱくフェイスブック

<http://www.facebook.com/MINPAKU.official/>

みんぱくツイッター

<http://twitter.com/MINPAKUofficial>



国立民族学博物館 ミュージアム・ショップ

沖縄の技と味

「日本の文化」展示の「沖縄の暮らし」セクションのオープンにあわせて、沖縄の伝統工芸「抱瓶（だちびん）」と、沖縄の味を楽しめる食品・ドリンクをご用意しました。抱瓶は沖縄県読谷の「やちむんの里」の職人さんが作ったもの。沖縄以外ではなかなか手に入らない品です。



ソーキそば
(2食分)

1,062 円

レトルトカレー類
500 円～

ドリンク類
(パイヤ、シーカーサー)
204 円



←水玉 (松田共司さん作)
6,667 円

青唐草 (松田共司さん作) →
6,667 円



←魚 (金城裕三さん作)
8,000 円

すべて税抜き価格

お問い合わせ FAX 06-6876-0875
e-mail shop@senri-f.or.jp 水曜日定休
オンラインショップ 「World Wide Bazaar」
<http://www.senri-f.or.jp/shop/>
『月刊みんぱく』など、みんぱくの刊行物のお求めは、
ミュージアム・ショップまで